

UDCBK 令和3(2021)年度実施予定事業(案)

1. はじめに

UDCBK は平成 30(2018)年にミッションを整理し、「UDCBK は、草津のまちづくりの推進のために、産・学・公・民が多様な価値観、個性、創造性を基礎とした知見を持ち寄り、専門家の先導的助言を得て、互いの良さを活かしつつ、長期的な見通しを持った都市デザインを構想し、必要な社会実験を行い、そのための学習と情報発信を行う」こととし、各年度の事業計画を立てて取組を進めてきた。

今年度は、南草津エリアにおける長期ビジョン策定の取り組みが進行したことや新型コロナウイルス感染の長期化などをふまえて、今後の事業展開を考えなければならない。

2. 南草津ビジョンの策定と具体化

草津市における将来の人口減少局面を視野に入れ、南草津エリアの魅力をより一層高める令和 12(2030)年度を目標年度とした「南草津エリアまちづくり推進ビジョン(南草津ビジョン)」を策定するために、昨年度、南草津エリアまちづくり推進懇話会が組織され UDCBK を事務局として5回の懇話会が開催された。また並行して令和元年度に立ち上がった UDCBK「都市と交通プロジェクト」は20年後の南草津の将来像をシナリオプランニング手法で描く市民参加のワークショップを3回開催してその成果を南草津ビジョンに反映することをめざした。

同懇話会では、南草津エリアの課題を分析したうえで、南草津ビジョンに掲げる南草津エリアの将来像を「あふれる活力と暮らしやすい環境が共生し、多様な交流が生まれるにぎわいのあるまち『南草津』」とおき、基本方針として、①大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進(活力)、②豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境の形成と地域主体によるまちづくりの推進(住環境)、③JR 南草津駅周辺やびわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進(交流)の3つの柱を掲げ各種施策を打つこととしている。

南草津ビジョンは、近く原案が発表されパブリックコメントをふまえて、今年度前期、策定される見込みである。

このビジョンは、今後南草津エリアで個別事業を行う際の指針となるものである。UDCBK としては、ミッションに基づきアーバンデザイン事業としてふさわしい取組を社会実験準備事業等も活用しつつ、大学や都市計画部とも連携しながら可能なところから各種事業を取り組む必要がある。

3. 事業プロジェクト

UDCBK は、ミッションに基づいて三つの事業プロジェクトを位置づけ活動を展開している。このような形での取組は本年度で3年目となり一定の節目を迎えることから、下記に示す今年度の事業展開をふまえて年度末にまとめを行う予定である。

(1) 都市デザイン連携プロジェクト

① 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

南草津駅に隣接した南草津プリムタウンで計画されている1号公園について、居住する住民の要望や意見をワークショップなどの参加型の取組で反映し、かつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを令和元年度から社会実験準備事業として取り組んできた。令和2年度はコロナ禍によりかなりの制約を受けたが、第1工区町内会設立委員会に連携協力いただくなどの前進

があった。

この1号公園を市民の手で作るプロジェクトは、3年目に入り公園の具体的デザインや活用を考える段階に至っており、1号公園を日常的に利用することとなる住民と土地区画整理組合、都市再生課と連携した取組として社会実験準備事業等の枠組みを活用して継続し、この経験の蓄積の活用を含めた今後の公園づくりにつなげる。

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅西口の東山道記念公園の利活用について、令和元年度から取り組んでいる「みなくさまちライブラリー」を活用した市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出の取組を進める。

また学生が授業で製作した都市建築デザイン作品のUDCBKでの展示を継続して行い、多様な視点からのまちづくりを考える。

② 南草津駅周辺の公民連携空間の利用促進

コロナ禍で屋内空間では三密が問題となるため屋外空間を利用することで安全で快適な活動ができる。多くの車中心の地方都市での駅前の公共空間は主に車の一時停車と歩行者の通過動線として利用されており南草津駅も例外ではない。駅周辺に人が留まることのできる空間が少ないとの問題意識から、人々が滞留したくなる魅力的な空間づくりを建築物の屋内・歩道にまたがる公民連携空間の利用促進により、健幸都市を標榜する草津市らしい「歩いて暮らせるウォークアブルなまち」を実現する取組を、社会実験準備事業も活用しながら新たなプロジェクトとして位置付けを進める。

(2) 都市と交通プロジェクト

本プロジェクトは、令和元年度、立命館大学、滋賀県、草津市都市計画部、UDCBKで都市と交通シナリオスタディ研究会としてスタートし、初年度は準備的な議論を進め、令和2年度は、専門家のレクチャーや市民参加のワークショップなどを通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構想する取組を進め、令和2年度事業報告にあるように3つのシナリオの提案にまとめるなど貴重な成果をあげることができた。

令和3年度は、3つのシナリオで対象となった南草津駅周辺の都市像をさらに精緻に検討する取組を進め、具体的な提案にまとめる学習・研究を行う。あわせて地域や市民・学生の方々に参加していただくプロジェクトづくりを進める。



(南草津ビジョン・将来像イメージ図)

(3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約 7,000 名以上の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し、大学生と地域の人びとが交流を通じてお互いに成長できるまちをつくることは地域の魅力を高めることに繋がる。そのための空間的仕掛けを創造していく取組を進めることは産学公民連携のプラットフォームである UDCBK にとって重要な課題である。

令和2年度は大学のキャンパス閉鎖やオンライン授業へのシフトなどで学生生活が影響を受け十分な取組ができなかったが、令和3年度は大学との連携を深めながら課題を共有し、共同の取り組みを進める。

4. 学習事業

学習事業は、オンラインでの開講・受講と UDCBK での視聴を基本として運営する。

(1) アーバンデザインスクール(前期後期各 5 回)

市民と専門家をつなぐコミュニケーターを育成することを目的に、アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学べる機会を提供し、今後のまちづくりに活かす。

前期は、別紙のように昨年度開講した「アーバンデザイン講座」の講師陣に再度協力いただき第二期を開講する予定である。

(2) アーバンデザインセミナー(年間 15 回程度)

広く市民がアーバンデザインを身近に感じることができるよう、テーマごとの相互学習の場と機会を提供する。また、その中で事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題を取り上げ、多様な層の問題や関心に応える内容を目指す。

5. 社会実験準備事業

草津市が包括協定を締結する 7 大学を対象に UDCBK の提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

令和 3 年度については、前年度までの枠組みを踏襲した運用をはかりつつも、募集テーマをより事業計画を補強ないし推進する内容となるよう見直した。6 月上旬に審査結果・委託額を申請大学へ通知する予定である。

事業委託者については 11 月頃に進捗状況の報告、事業終了後は市民への成果還元のために、成果報告会(2 月)および成果報告書の Web 公開をお願いする。

6. オープンスペース

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、数回の閉鎖を余儀なくされ、また再開後も 3密回避の措置をとっていることからスペースが制限され、従来の交流、学習、協議が著しく影響を受けている。またセミナーやスクールがオンライン形式にシフトするなどから利用についても変化が起きており、本事業のあり方を見直しが必要になってきている。

“まちの広場”としてのオープンスペースを当面維持しつつも、全国の事例も参照しながら今後の在り方の検討を進める。

7. 情報発信

UDCBK の活動を発信し、市民的理解を得ることは重要であり、令和 2 年度、報告中心のコンテ

ンツを一定整理したが、UDCBK の基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視した内容の改善を行うことが課題である。

公式アカウントを持つ Facebook での発信の充実を図るとともに、草津市やまちづくり協議会などの LINE や Facebook での情報発信、南草津駅デジタルサイネージや立命館大学教職員向けの掲示板なども連携・活用させていただき、関係者の協力を得ながら情報発信に努める。

8. 法人化検討

平成 30 年に UDCBK 法人化検討委員会の答申を受け、UDCBK のミッションを明確にして各種プロジェクトを立上げ事業を行ってきており、法人化ワーキング部会で整理したメリット・デメリットに事業を当てはめ、組織形態など検討を継続した。

南草津ビジョンでは、同ビジョンの推進体制として「新たなプラットフォーム」が提案されており、その具体案を検討する必要がある。従来の UDCBK 法人化検討もこの「新たなプラットフォーム」を含め、継続した調査・研究を行う。

9. その他

(1) 前述したように新型コロナウイルス感染症の影響により UDCBK のこれまでの事業展開が変化してきている。他方で南草津エリアの 10 年から 20 年後の将来のイメージをつくる取り組みが前進し、この成果を今後どのようにまちづくりで具体化していくのかという新しい課題がある。after/with コロナの社会変化を注視しながら、ミッションに基づく UDCBK の今後のあり方や事業展開について、当面事務局で論点整理を行い運営懇話会委員の意見も聴取しながら検討を進める。

(2) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者との交流・勉強会を適時開催するとともに、この間の活動の中で繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK の各事業に結びつける取組を強化する。

従来の UDCBK の取組の中で産業界との連携事例が少なく課題であったが、昨年度の取組の中で UDCBK 運営懇話会メンバー企業様のほかに、南草津ビジョン推進懇談会や都市と交通ワークショップや UDCBK セミナー受講などを通して複数の企業様と新たな関係を構築することができた。今年度、連携をさらに深め新しいまちづくりに資する各種企画や調査研究につながる取組を進める。

(3) 全国の UDC の先進的な取組に学び、全国組織 UDC ネットワークとの交流を深める。上記の都市デザイン連携プロジェクトとも関係するが、近年、エリアマネジメントの重要性が指摘されており、UDC ネットワークでも研究会が企画されている。これらの取組に積極的に参加し全国の知見を事業に取り入れる取組を進める。

以上